

司式 熊田雄二牧師  
奏楽 門脇陽子姉妹

前 奏  
開 会 招 詞

\* 賛 美 歌 6:1 われらの御神はあめつちすべます  
われらの御神はあめつちすべます  
国々島々 喜びたたえよ アーメン

\* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈禱書2 罪の告白①

神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背きの罪をぬぐい去つ  
てください。わたしの咎をことごとく洗い、罪から清めてください。わたしは咎のうちに産み落とされ、  
母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のうちにあったのです。わたしを洗ってください。雪よりも  
白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜び  
を再びわたしに味わわせ、自由の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この  
口は、あなたの賛美を歌います。 主イエス・キリストの御名によって。ア - メン。 (詩編51)

罪の赦しの宣言 イザヤ書53章より

十 戒 祈禱書4

1. あなたは、わたしのほかに、何者をも神としてはならない。
2. あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱える者を、罰しないではおかない。
4. 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
5. あなたの父と母を敬え。
6. あなたは殺してはならない。
7. あなたは姦淫してはならない。
8. あなたは盗んではならない。
9. あなたは隣人について偽証してはならない。
10. あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。 (出エジプト20、申命記5)

\* 賛 美 歌 6:2 御いつの光は世界を照らせり  
御いつの光は世界を照らせり  
大地はかしこみ 御前にふるえり アーメン

公 同 の 祈 禱 祈禱書 13 降誕節6 主の変貌

主なる神さま、わたしたちの主イエスが、弟子たちを連れて高い山に登られたとき、あなたは

聖なる栄光を、主の上にあらわし、「これは私の愛する子、これに聞け」と、天から命じられました。あなたは、受肉した神の言葉であるキリストが、律法と預言の成就であると宣言されました。それゆえわたしたちは、キリストの主権を喜びます。その栄光は、主が十字架に向かって行かれたときも、力強く輝いていたことを信じます。(IIペトロ1、マタイ17)

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 東部中会の教育活動 70  
今献ぐるそなえものを 主よ 清めて受けたまえ アーメン

聖書朗読 ルカ福音書13章1～9節(新約聖書134頁)

説教・祈祷 「悔い改めの実」 熊田雄二牧師

\* 賛美歌 79:1 キリストにはかえられません  
キリストにはかえられません 世の宝もまた富も  
このお方が私に代わって死んだゆえです  
世の楽しみよ去れ 世のほまれよ行け  
キリストにはかえられません 世の何ものも

\* 主の祈り 祈祷書1

天にまします我らの父よ  
願わくは御名をあがめさせたまえ  
御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ  
我らの日用の糧を 今日も与えたまえ  
我らに罪を犯す者を我らが赦すごとく 我らの罪をも赦したまえ  
我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ  
国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

\* 頌 栄 64 み恵みあふるる  
み恵みあふるる父・御子・御霊の一人の御神に御栄え尽きざれ。 アーメン

\* 祝 禱  
後 奏 (黙禱)

報 告 門脇献一長老(司会・受付 次週:古澤純一長老)

本日 受付 1階:加藤良明・若月学執事 2階:森永美保執事 / ZOOMホスト・録音:雨宮信長老

次週 受付 1階:大日南隆夫・大日南信也執事 2階:藤井牧子執事 / ZOOMホスト・録音:森永翔馬

※ 2グループ制により、長老も1階と2階に一名ずつ加わります

## I 悔い改めなければ滅びる

1節に「ちょうどその時」とあるので、場面は、まだそれまでの話から続いています。11：37で「ファリサイ派の人から食事の招待を受けた」とあります、この場面からです。そして12：1に「とかくするうちに、数えきれないほどの群衆が集まって来て」とありますので、大勢集まりました。そしてきょうの13：1「ちょうどその時」と続いているわけです。

「ちょうどその時」何があったかという、と、「何人かの人に来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえに混ぜたことをイエスに告げた」ということがありました。あのポンテア・ピラトが、何人かのガリラヤ人を死刑にしたということですが、その時は正当な裁判をしたのでしょう。「ガリラヤ人の血をガリラヤ人のいけにえに混ぜた」という知らせ方は告げ口だったので、イエス様は言われました。「そのガリラヤ人たちがそのような災難にあったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。」

そのガリラヤ人とほかのガリラヤ人という区別があるようです。そのガリラヤ人というのは、「異邦人のガリラヤ」(イザヤ8：23⇒マタイ4：15)と呼ばれる人々です。ソロモン王のあと、イスラエル王国は、北イスラエルと南ユダに分裂しました。北イスラエルはアッシリア帝国に滅ぼされて「サマリア」という植民地にされ、イスラエル人と異邦人が混ざってしまいました。南ユダは「それ見ろ、罪深いから神様に滅ぼされたんだ」と思いましたが、南ユダ王国も異邦人の神々を混ぜ込んだので、真の神様から罰を受けて、バビロン帝国に滅ぼされてしまいました。

その後、ユダヤ人の一部がガリラヤに移住するということがあって、イエス様誕生の次第には、ヨセフとマリアが住民登録で、ガリラヤのナザレからユダヤのベツレヘムに行くということがありました。そこで、いわゆる「異邦人のガリラヤ」とは違う「ユダヤ人のガリラヤ」があったわけです。そこでイエス様は言われたのです。「そのガリラヤ人たちがそのような災難にあったのは、ほかのどのガリラヤ人よりも罪深い者だったからだと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」

さらにイエス様は、もう一つ例を挙げて、ダメ押しされました。「シロアムの塔が倒れて死んだあの18人」と言えば分かる大事故があったようです。「シロアムの塔」と言えば「シロアムの池」を思い出すので、エルサレム神殿のそばに「シロアムの塔」という塔があったようです。今度は田舎ガリラヤのユダヤ人ではなくて、都エルサレムのユダヤ人です。その大事故で死んだ人は「エルサレムに住んでいたほかのどの人々よりも、罪深い者だったと思うのか。決してそうではない。言うておくが、あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」と、イエス様は言われました。

どうも、事故や病気で死ぬのは罪深いから神の罰を受けたんだという考えが一般にあったようです。その程度にしか旧約聖書を読めなかったようです。これでは他の宗教と変わりありません。信心が足りないからだ、お題目や念仏を唱える数が少ないからだ、悪

いことをするから罰が当たったんだ、とかですね。

いや、ほかの宗教よりも質の悪いものになっていました。だから、次の場面に移る10節では、また安息日の問題が出てきます。律法を守るために細かい規定をたくさん作って民法や刑法の六法全書みたいにしていましたから、律法の本質からは遠く離れていました。

ここでイエス様が繰り返して強調しておられるのは、「悔い改め」です。そしてそれが、旧約聖書の読み方でした。預言者たちが繰り返し強調したのは「悔い改め」です。神に背を向けて偶像に向かっていく姿勢を悔い改めて、「神に立ち帰れ」、これが旧約預言者たちを通して語られた神のメッセージでした。向きを変えて神に立ち帰れと、何人も何人も預言者をお遣わしになりましたが、預言者たちの声に耳をかさず、むしろ命をねらう有様でした。

それでも神はご自分の名にかけて誓われた契約を果たすため、最後にご自分の独り子をお遣わしてくださいました。ですから、イエス様の宣教の第一声は「神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」でした。

## Ⅱ 忍耐と励ましの神

悔い改めて神に立ち帰るように何度も呼びかけてきたことを、イエス様は次の段落「実のならないいちじくの木」のたとえでお語りになります。このたとえを理解するキーワードは「アブラハム」です。「アブラハム契約」です。この段落も前の段落も次の段落も、小見出しの下に、他の福音書の参照箇所がありません。つまり、ルカ福音書だけにある記事です。次の段落「安息日に腰の曲がった婦人をいやす」は次回の説教ですが、キーワードは「アブラハムの娘」です。ルカはパウロからよほどしっかりした契約神学を学んだのでしょう。

きょうのこの「実のならないいちじくの木」のたとえは、一読して、旧約聖書に似た話があったなあと思ひ出します。実のならないイチジクの木を切り倒せという主人に、何とか実を成らせようとする園丁が、必死になって執り成します。これ、アブラハム物語にありましたね。ソドムとゴモラの町の罪が非常に重いので、主なる神は滅ぼそうとされました。しかし、アブラハムは、甥のロトの一家がいるので必死になって執り成しました。「もし50人正しい者がいたら、滅ぼさないでいただけますか」から始まって、45人、40人、30人、20人、10人と食い下がりました。そのたびに、神は「よろしい、赦そう」と言われました。しかし、10人もいなかったもので、ロトと妻と二人の娘、計4人だけが脱出したあと、町は滅ぼされました。

神と罪人の間を執り成すことができるのはイエス様だけですから、アブラハムはイエス様のモデルでした。旧約聖書の契約の代表者は、みなイエス様のモデルです。アダム、ノア、アブラハム、モーセ、ダビデ、みんなイエス様のモデルです。だから、イエス様によって神に立ち帰ることは、旧約でも新約でも同じメッセージです。神に背を向けていた罪人の向きを変えて、神に向かわせることができるのは、神の御子キリストだけです。神と人との仲保者イエス・キリストだけです。

そこで悔い改めの実は、救い主への感謝から始まります。赦されたこと、赦されてい

ることへの感謝によって実を結びます。信仰と悔い改めと善い行いは結びついているのです。ですから、信仰の喜びがなければ感謝の実を結ぶことはありません。私たちは、どこからこの喜びが始まったのでしょうか？ 70過ぎると、振り返るだけの年数はありますが、人生でいちばん嬉しかったことは、クリスチャンになったことです。

幼児洗礼を受けた契約の子は、信仰告白したことに当たります。信仰告白は、ノンクリスチャンが洗礼を受けてクリスチャンになったことほど、劇的な喜びはないかもしれません。あっても小さいかもしれません。ですが、このことは覚えておいてください。愛を告白したのは神様の方がずっと先だったということです。それがジワジワ効いてきます。